

日本会議 愛知県本部
〒464-0836
愛知県名古屋市千種区菊坂町3-5-302
E-mail: tokai-seikyo@mtc.biglobe.ne.jp

TEL : 052-763-4678
FAX : 052-763-4588



第25回日本政治経済研究所公開セミナー開催さる

□去る9月9日、開催された公開セミナーは第25回を迎えた。本年は緊迫する朝鮮半島情勢をいかにとらえるのか。そして日本は何をなすべきかについて、田久保忠衛氏(日本会議会長)、西岡力氏(救う会会長)がそれぞれの立場から語られ、参加者一同大いに啓発を受けた。



田久保忠衛氏



西岡力氏

南京の真実 「志那事変と中国共産党」 上映会開催さる

□去る10月1日、開催された上映会は、平成20年第1弾の南京の真実「7人の死刑囚」より9年ぶりのこと。多くの人々が待ち望んでいた映画である。

当日は開場の1時間前より行列ができ、用意した250の座席はほぼ満席。141分の長編であったが、参観者は最後まで食い入るように見入っていた。また水島総監督より、舞台挨拶もあって大いに盛り上がった会となった。



日本女性の会愛知 9月例会開催さる

□去る9月26日、日本女性の会愛知9月例会が開催された。初参加者が5名あり全員から近況報告がなされた後、西村会長から日本人の精神性の高さについての卓話があった。最後に唱歌「野菊」を合唱して、終了となった。



ちらちらと雪が舞う中、嵐山の火葬塚に参拝記 其の三十三



ここで不思議なことがあります。後嵯峨天皇のお二方の皇子、後深草天皇の血統が大覚寺統となり、大覚寺統の龜山天皇と持明院統の後深草天皇の皇孫、後伏見天皇が同じ火葬塚なのです。

火葬塚に参拝記 其の三十三



午後最初の目的地は嵐電の嵐山駅のすぐ北にある光厳天皇の髪塔です。合掌。

道を挟んだところには荘厳な天龍寺の門が構えています。門をくぐりまっすぐ進みます。庫裏に突き当たる少し手前右側に墓所へ入る門があります。「墓参以外の立ち入りは遠慮ください。」の張り紙がしてあります。そして門の入り口には太い竹の棒が渡し掛けてあります。私は参拝目的なので遠慮なくぐららせていただきました。入ってすぐ左手には後嵯峨天皇の嵯峨南陵と龜山天皇の龜山陵が並んであります。十数年前に参拝したときは工事中でしたが今はきれいな状態を拝すことができました。合掌。



墓所を出た後、天龍寺の庭園を拝観しました。庭園の南端の入り口から入り、池を眺めながら大方丈小方丈のの前を通り過ぎ北の出入り口に抜けました。その北口を出たところからちょうど嵯峨野竹林が始まります。



風情があつてよいのですが、少々人が多すぎます。やはり竹林は早朝の人がいないひっそりとした時間帯がもっと風情があつて良いでしょう。竹林を通り抜け突き当りを北へ曲るとJR嵯峨野山陰線が下を通っているのが見えます。更に北へ歩き小倉池畔を北上し左手に常寂光寺の入り口を見ながら右へ曲がります。そして少し歩いてくるのが今日最後の目的地、嵯峨天皇の皇女、有智子内親王のお墓です。有智子内親王は嵯峨天皇の第八皇女で初代の賀茂斎院つまり賀茂御祖神社(下鴨神社)と賀茂別雷神社(上賀茂神社)の両賀茂神社に奉仕した皇女です。二礼二拍手一礼。

JR嵯峨嵐山駅まで戻り京都駅に向かいました。今日は一日雪が降り寒い一日でしたが、かえって風情があつて良いものだと思います。帰りの新幹線もやはり十五分ほど到着が遅れました。(愛知県本部事務局 松川秀康)

事務局日誌(九月) 服部守孝

三日(日)第九十六回愛知縣護國神社清掃奉仕会へ。初参加の女性があり、来月も参加したいと仰せだった。六日(水)先月開催された、第十六回もうひとつの戦争展の反省会へ。慰労会を兼ねて弁当とビールが振る舞われた。九日(土)第二十五回日本政治経済研究所公開セミナーへ。田久保忠衛氏、西岡力氏によるシンポジウムが開催された。二十三日(土)日本のこころタウンミーティングへ。西村真悟氏のビデオメッセージと中山恭子代表による講演があつた。本会からの参加者も多くあり大盛況。二十六日(火)日本女性の会愛知九月份例会へ。今回も初参加者が五名あり、ますます活気が感じられる会合だった。二十九日(金)中日新聞夕刊に東トキキスタ大統領のアフメットビュン・オスマン氏のインタビュー記事が掲載された。(詳細はインターネットでお読み下さい)中日新聞にも健全な記者がい

愛知県護国神社清掃奉仕予定

- 11月5日(日)午前8時開始。※清掃奉仕終了後、9時より「月参り」に参列いただけます。
引き続き12月3日(日)午前8時開始とします。
軍手を必ずご持参ください。また、小雨なら社殿の木枠拭きをしますので雑巾をご持参下さい。大雨は中止になりますが疑わしい天気の場合には、現場責任者の服部宛、電話(070-6583-4588)を下さい。10月1日は11名の参加でした。御神田の稲穂がハザ掛けしてありました。ありがとうございました。



(10月1日 奉仕後に撮影)

「日本の息吹」を引き続きご購入くださいますようお願いいたします。



るものだと感心。去る八月七日に大統領御一行を名古屋にお迎えして、小宴を催した。大統領は青年の頃より三島文学に傾倒された方であることをお聞きしていたので、その席で誠に僭越ながら私の所見を申し上げたのである。すなわち、三島由紀夫先生は「変革とは雛型をつくることだ」と言われたが、大統領こそが雛型であり、その体現者である。時に備えて待機しておられる貴殿は誠に立派であり、尊い存在であると。大統領はいたく感銘を受けられた様子で、固い握手を交わされたのだ。